

日本口腔インプラント学会
第23回関東甲信越支部総会
学術大会

プログラム・抄録集

会 期：平成15年10月19日(日)
会 場：都市センターホテル
主 催：日本口腔インプラント学会関東甲信越支部
大会長：五十嵐俊男
主 幹：(社)日本歯科先端技術研究所 関東甲信越地区会
後 援：神奈川県歯科医師会
千葉県歯科医師会

HAコーティングインプラントを中心とした各種インプラントの臨床成績

○前谷崇志¹⁾, 渡辺孝夫¹⁾²⁾, 池田哲哉¹⁾²⁾,
白井 規¹⁾, 白鳥徳彦¹⁾, 山崎和恵¹⁾, 中山尚仁¹⁾

(社)日本歯科先端技術研究所¹⁾, 厚生歯科²⁾

I 目的

インプラント体の破折, 脱落, 摘出を失敗とした時, 失敗率はインプラント選択の重要な指標となる. 今回は自験例を対象に失敗率, トラブル内容を調査し, HA(ヒドロキシアパタイト)コーティングインプラント(HAC)の特徴を検討したので報告する.

II 方法および材料

1983年9月より2002年7月までの約19年の間に千葉県市川市厚生歯科にてインプラント治療を行った325名(男性113名, 女性212名, 平均年齢42.9歳, 14歳より80歳)を今回の調査対象にした. 総植立手術数436回, 植立総インプラント本数971本, メーカー別の内訳はパラゴン610本, ITI 191本, バイオセラム58本, アパセラム28本, ブローネマルク4本, ステリオス2本, カルシテック53本, マイティス10本, デュアルインテグレーター2本, JIAD 13本であった. メーカーごとにインプラントの失敗率を求め, 次いで, インプラントを, 形態, 表面微細処理, インプラント体の材質などの特徴から, AL, HA, HAC, TSC, TPSの5つに分類(池田分類, 2001)し, それらの失敗率を比較した.

III 結果

調査時点までにインプラント体の破折, 脱落, 除去にいたったのは7.0%(68/971本)であった. 内訳はパラゴン3.3%(20/610本), ITI 8.9%(17/191本), バイオセラム5.2%(3/58本), アパセラム64.3%(18/28本), カルシテック9.4%(5/53本), マイティス10.0%(1/10本), デュアルインテグレーター50%(1/2本), JIAD 15.4%(2/13本)であった. 一方, インプラントの形態, 材質による分類では, ALは12.3%(7/57本), HA 46.4%(13/28本), HAC 16.1%(15/93本), TSC 1.4%(6/431本), TPS 9.2%(17/184本)であった. HACインプラントについてみると, 同一製造方法でHAコーティングがなされているパラゴン社のTSVHとカルシテック社のスプラインは, 合計が58本, 別の製造方法をとっているパラゴン社の旧マイクロバンドと旧バイオバンドは40本みられ, 失敗率はそれぞれ8.6%, 25.0%で, 両者に大きな差がみられた.

IV 考察および結論

HACインプラントについては, 骨結合を獲得しやすいとする意見と, 逆に剥脱したコーティング材が異物化するとする意見があり, インプラントとしての評価が一定していなかった. 今回の調査結果から, HACインプラントは製品間の失敗率に大きな差がみられ, これがHACインプラントの評価を一定にしなかった要因だと考えられた.